

日付:2016年2月28日／聖書:ヨハネによる福音書15:1～17

説教:「わたしにつながっていなさい」

イエスは、「わたしはまことのぶどうの木・・・わたしに繋がっていなさい」と、ご自分をぶどうの木に譬える。私に繋がってあれば豊かな実を結ぶと。イエスがこの後、十字架にかかり、この世との別れの中で、目に見えない“わたし”との繋がり、目に見えないイエス・キリストとの繋がり、大切さを語る。人は一人では生きて行けない存在である。私たちは、必ず何かに繋がって生きている。出来るだけ具体的なもの、目に見えるものと繋がり、安心感を得ようとする。私たちは一人では生きられない。ゆえに、私たちが何に繋がるか、誰に繋がっているかはとても大事になってくる。そこでイエスは、《わたしにつながっていなさい。わたしもあなたがたにつながっている。…人がわたしにつながっており、わたしもその人につながってあれば、その人は豊かに実を結ぶ。…》というのである。

10節に、「わたしが父の掟を守り、その愛にとどまっているように、あなたがたも、わたしの掟を守るなら、わたしの愛にとどまっていることになる。」とあるが、ここはイエスの「掟を守る」ことが、イエスの「愛にとどまる」ことだと思われがち。私たちが頑張ってイエスに繋がること、聖書の教えを守ること、その努力こそが、イエスの「愛にとどまる」ことだと思っていないか・・・。「わたしにつながっていなさい」というイエスの言葉は、「わたしもあなたがたにつながっている」というイエスの約束の言葉が前提になっている。「わたしが足を洗ったのだから、あなたがたも互いに足を洗い合いなさい」(13:14)ということ。つまり、「あなたがたがわたしを選んだのではない。わたしがあなたがたを選んだ」(15:16)とあるように、イエスのほうから先行して、私たちを選び、私たちを愛して下さっているということであり、その愛に気づかされた者は、「わたしにつながっていなさい」「わたしの愛にとどまりなさい」ということになる。

13節「友のために自分の命を捨てること、これ以上に大きな愛はない」。ここは、他者のために死ぬことが最高の愛である・・・と言っているように聞こえるが、決して自己犠牲を勧める言葉ではない。ここは、「互いに愛し合う」ことが本意であって、「互いのために命を捨てあう」ということが語られているものではない。自分の命を「捨てる」という言葉を原語で見ると、「置く」とある。犠牲の精神によって自分の友のために命を捨てるということではなく、愛する友の上に、イエスはその命を「置いた」という、一度限りの特別な出来事としての十字架の意味を指している。ゆえに、「友のために自分の命を」とは、イエス御自身のことであり、ただ一度限りの特別な出来事としての十字架のことである。そのイエスが私たちと繋がっているのであり、その愛にとどまり、そのイエスに繋がっていることの希望を覚えたい。(神谷)